

本学教員執筆書籍の紹介

稲葉佳江・大日向輝美編著 縦 255 × 横 180mm 304 ページ

看護ヘルスアセスメント

メジカルフレンド社 2011年1月21日発行 定価 3,675 円 (税込み)

稲 葉 佳 江

本書は、本書の前身となる「成人・高齢者のためのヘルスアセスメント」を全面的に見直し、初めてヘルスアセスメントを学ぶ看護学生や新人看護職の継続教育の学習書として編纂したものです。

近年、看護を取り巻く医療状況は大きく変わりつつあります。医療現場がより複雑高度化するなか、看護職の役割も多様化、専門化しています。看護教育は、その変化と期待に応えられる一定水準をもつ看護実践能力の育成が求められています。なかでも、看護実践力の質を決定づけるのがアセスメント能力です。

前掲の書を出版した2004年当初は、「フィジカル」面への注目度は高く、いくつもの技術書が出版されていました。当時は看護と健康の観点を網羅する「ヘルスアセスメント」との区別も容易ではなく、看護過程と理論的つながりもなく教授されるという課題を抱えていました。現在では、「ヘルスアセスメント」教育が定着しつつありますが、教育現場では授業時間数の制約や学生の学び方が変化するなか、授業方法の試行錯誤が続いています。

そこで、本書は、学生にとっては学びやすく、教員にとっては授業計画の具体的指針になるよう、以下の特徴をもって再編しました。

① ヘルスアセスメントの概念、初期アセスメント、フィジカルアセスメント、栄養アセスメント、メンタルヘルスアセスメントの5章構成にしています。ヘルスアセスメントの概念では、看護や人間の特性、看護過程のそれぞれとヘルスアセスメントの関係等

を取り上げ、看護職がヘルスアセスメントを学ぶ意義を示しています。初期アセスメントでは、看護情報を網羅した健康歴とインタビュー法、一般状態の観察方法を記載し看護の意味づけを行っています。フィジカルアセスメントでは、形態機能の基礎知識、診察方法、診察結果の所見基準、異常所見例、さらに異常所見と健康生活・行動との関連と看護推論を取り上げています。また、他の成書では扱われることの少ない栄養とメンタルヘルスの各アセスメントを取り上げ、アセスメントの学習がフィジカル面に偏ることなく、人間の健康を全体的に把握できるよう構成することで、「ヘルスアセスメント」を標榜する本書の特徴の一つにしています。

② 学習のポイントをわかりやすくするために、各章に学習のねらいと目標を設定するとともに、全般的に文章を簡潔にし、写真・図表を数多く使用することで学習しやすくしました。

③ ヘルスアセスメント学習の過程で看護実践と直結できるように、学習記録を末尾に掲載し演習や自己学習しやすく工夫しました。

本書は、全国7大学の看護学教員の執筆協力のもとに完成しました。本学においても、基礎看護学教員の升田由美子准教授、一條明美講師、神成陽子助教にも執筆者の一員に加わって頂きました。学生、新人看護職、教員の方々に、それぞれの立場から学習書として広く活用し役立てて頂くことを願っています。

(旭川医科大学 看護学講座)